

ヘルスツーリズム研究会 講演内容まとめ

— 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構 —

(発表日 第6回研究会 2006年9月20日)

1. 講演タイトル: (株)日本旅行における「健康関連旅行商品」の開発について

2. 所属機関および発表者名: (株)日本旅行 営業企画本部国内仕入チーム マネージャー 清水 芳裕

3. 講演概要

当社における「健康関連旅行商品」の開発は、2005年に創業100周年を迎え、これまでにない社会トレンドを踏まえた新たな領域での旅行商品化事業の推進に端を発した。

旅行商品と言えども一般的な時代の流れ(トレンド)を意識した素材開発をしなければならないと捉え、開発のテーマを「健康」「環境」「オンリーワン」の3つとし、それぞれシリーズ化し、商品開発を行ってきた。「健康」テーマ商品は「からだにやさしい旅」とし、旅行を通じていかにからだや心をリフレッシュしていただくかをポイントとして進めてきた。

初期段階としては、主として観光地として馴染みやすい温泉地でテーマを区分し、商品を開発してきた。

「ここだけの湯」:温泉の泉質を活かしたプラン(万病に効くと言われる強酸性の玉川温泉や体細胞を活性化する放射能泉の三朝温泉など)

「湯を識る」:からだにいい入浴方法を伝授(温泉指南役による入浴法指導を行う湯原温泉や古式入湯作法を体験する城崎温泉など)

「歩いて癒す」:温泉と自然の中で癒す(森林メディカルトレーナーと自然を歩く信濃町・黒姫高原や自然案内人インタープリターが案内する飛騨高山など)

実施内容例として、信濃町・黒姫高原においては「森林セラピーのメッカで体感する「癒しの森歩き」と題した旅行を企画した。これは、森林メディカルトレーナーと一緒に森林浴をし、呼吸法の体験や調和療法(歩き方や軽い運動)を行うことによって、からだをリフレッシュさせるもので、お宿ではアロマ風呂やハーブティー、ヘルシー料理の夕食を提供するなどからだに配慮した内容とした。

まだまだ、健康をテーマとした旅行商品の充実度や社会からの注目度などは低いですが、一般生活では重要なファクターとなっているため、このような目的を明確にした取組みは重要と考えられる。

今後の「健康関連旅行商品」を開発する上での課題として、健康のどの部分をターゲットにしたものなのかを明確に打ち出す必要がある。

「健康維持」:健康な状態を維持することを目的

「健康増進」:現在の状態からよりよい状態にするための対策

「健康回復」:健康な状態へリカバーすることを目的

また、一方で、一般的な旅行者のニーズは、旅先では「非日常を体感したい」「おいしいものを食べたい」などの欲求があるため、健康をテーマとする旅行商品の開発にあたっては、ニーズと旅行商品の調和をどこに設定するのかが今後の検討課題と言える、